

## 年末に予想されるインフルエンザの流行に備え 岸田総理は今こそ決断力を発揮すべき

現在第7波が取り沙汰されている新型コロナウイルス感染症ですが、新規陽性者数は依然高い水準で推移し、その驚異はいまだに続いています。

そして間違いなく次に来るとされる第8波は、年末に向けて流行の兆しが見えるインフルエンザの流行と重なることが予想され大変な事態を引き起こす脅威になることが予想されています。

国民にとって脅威となるこの流行に備え、我が国の経済活動を維持し、医療提供体制を崩壊することなく乗り越えていくためには、岸田総理率いる日本政府が先手を打ち、速やかな行動を取るべきではないでしょうか。

岸田首相の指導力と政策実行の素早さが鍵を握ると思います。

第7波の中で、政府は新型コロナウイルス感染症対策の見直しをスタートさせ、医療機関の負担が甚だしく大きいとされる全数把握の見直しを行い、診療に関わる公費負担のあり方が議論されているところです。

そこで論じられているのは医療現場の負担軽減と経済活動の両立というテーマですが、いまこそ、より大きな視野を持ち、国民の健康と財産をいかに守るかという視点で、来るべきインフルエンザの流行襲来を見据えた上での新型コロナウイルス感染症第8波への対策を講じていかななくてはなりません。

さまざまなご意見もあると思いますが、私は自主規制も含め、現状の第2類以上の厳しい予防措置を取り、日本国民を守っていくことを最優先に対策を講じることを忠告したいと思います。

間く力や説明責任もさる事ながら、しっかりとした指針と指導力を発揮することもリーダーにとっては欠かすことのできない要素であるはずで。

今こそ、岸田総理の決断力と素早い実行力を発揮していただきたいと思います。

本誌主幹 大中 吉一